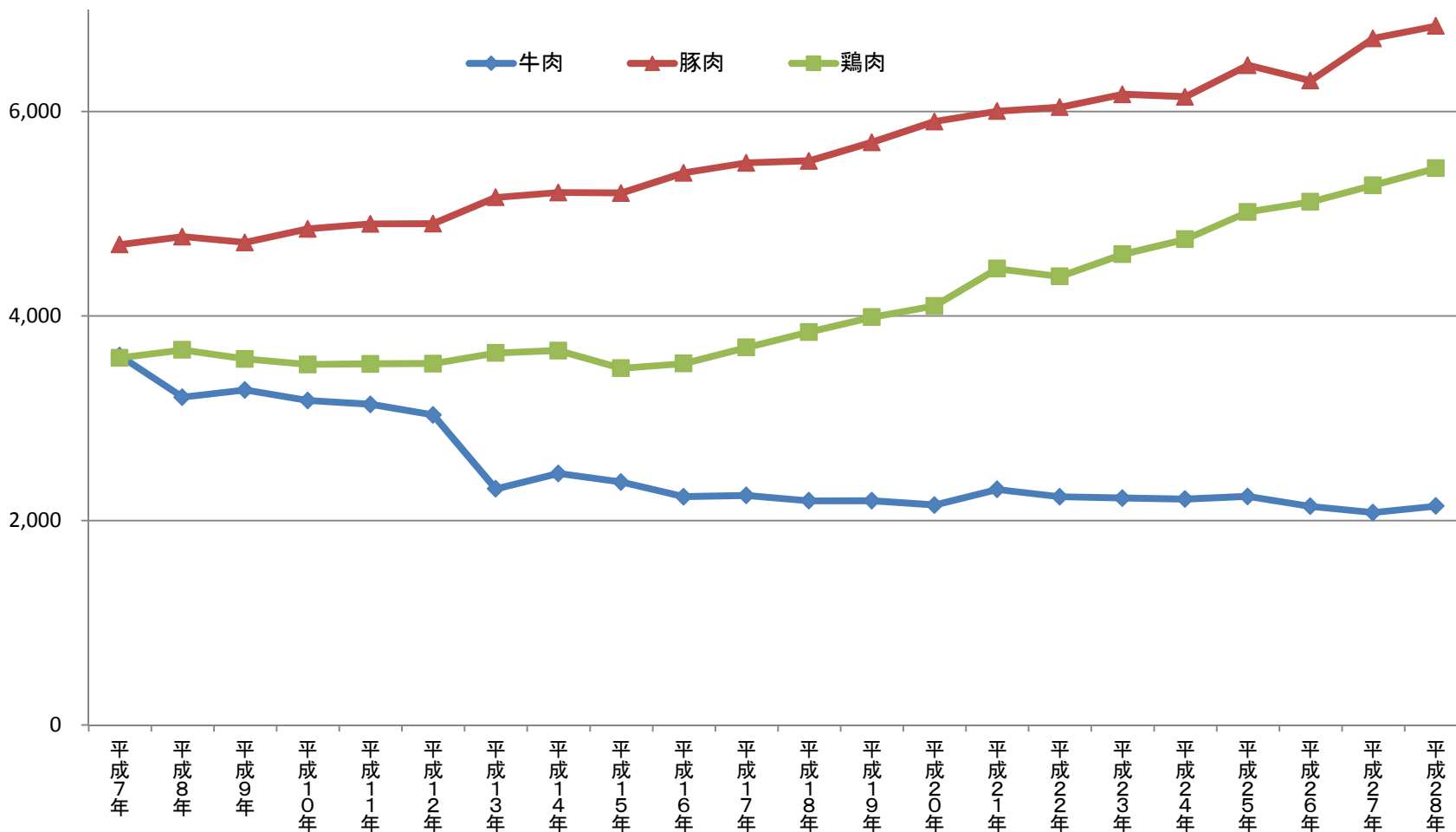


食鳥肉販売業の状況について

鶏肉の市場動向 (食肉類の家計消費動向(国内))

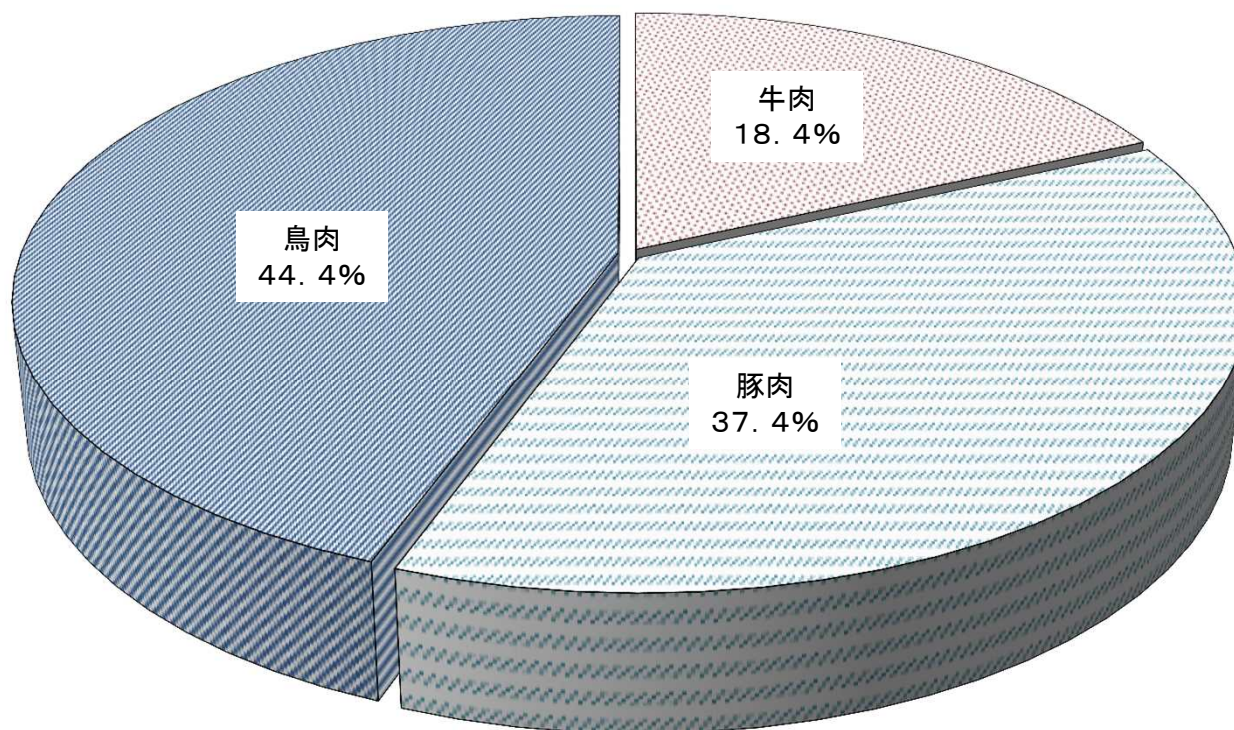
○平成28年度の我が国の食肉類家計消費は、豚肉が最も多く6,837g、次に鶏肉で5,446g、牛肉は最も少なく2,141g
○平成7年の家計消費を100とした場合、平成28年の家計消費では、牛肉で59.3、豚肉で145.5、鶏肉で151.7

単位:g/1人あたり



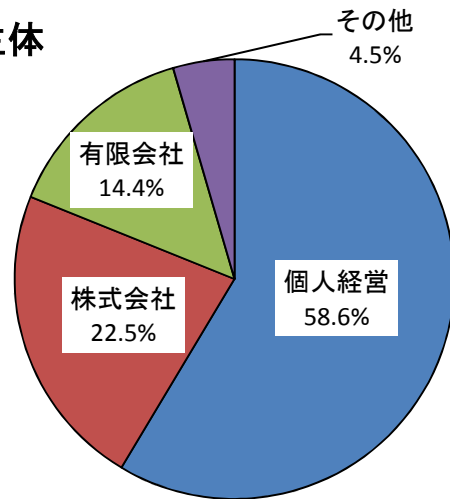
平成28年度 我が国の食肉類流通量(推定出回り量)

平成28年度の我が国の食肉類流通量は、鶏肉が最も多く約209万トン(うち輸入品26.1%)、次に豚肉で約176万トン(うち輸入品49.3%)、牛肉は最も少なく約86万トン(うち輸入品62.5%)

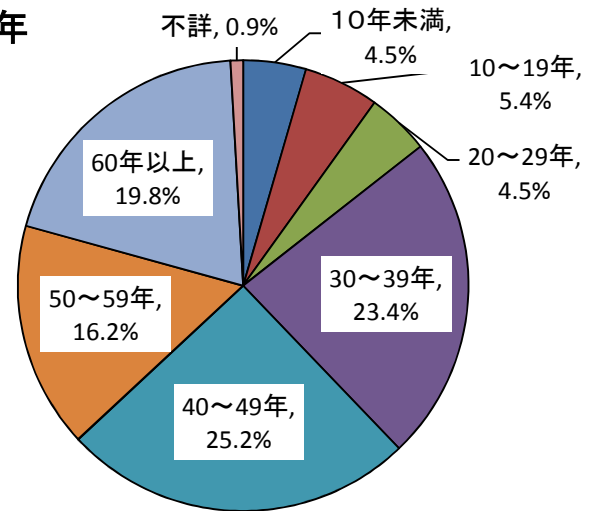


食鳥肉販売業経営実態調査①

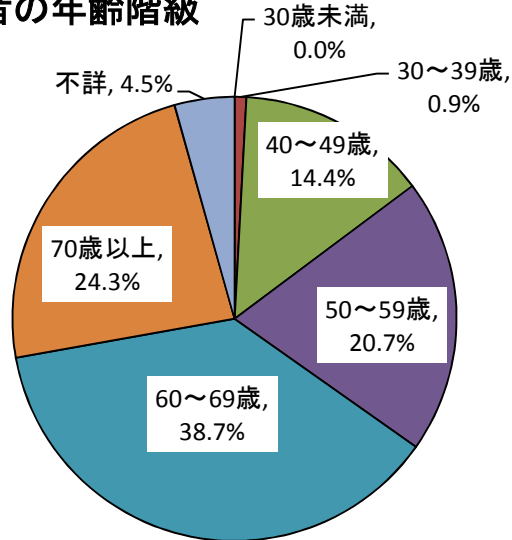
経営主体



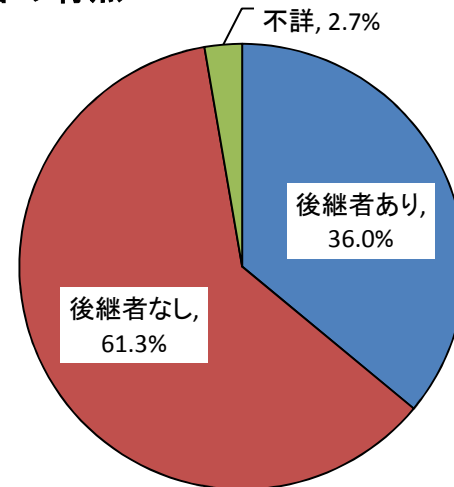
創業年



経営者の年齢階級

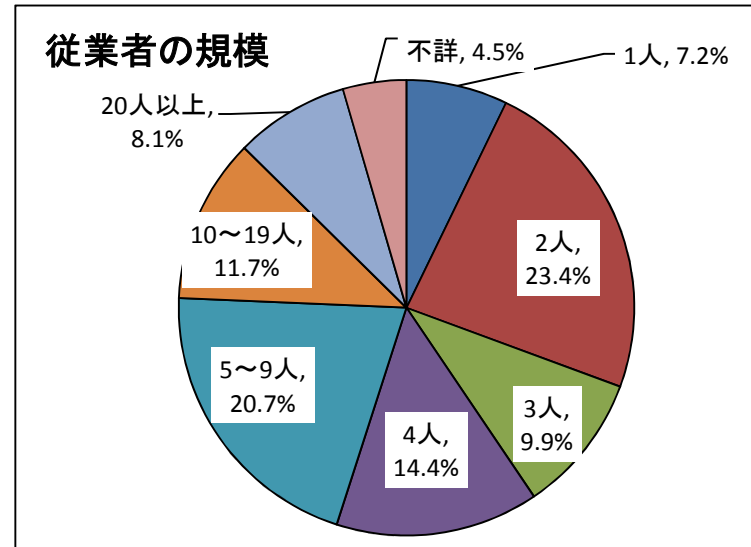
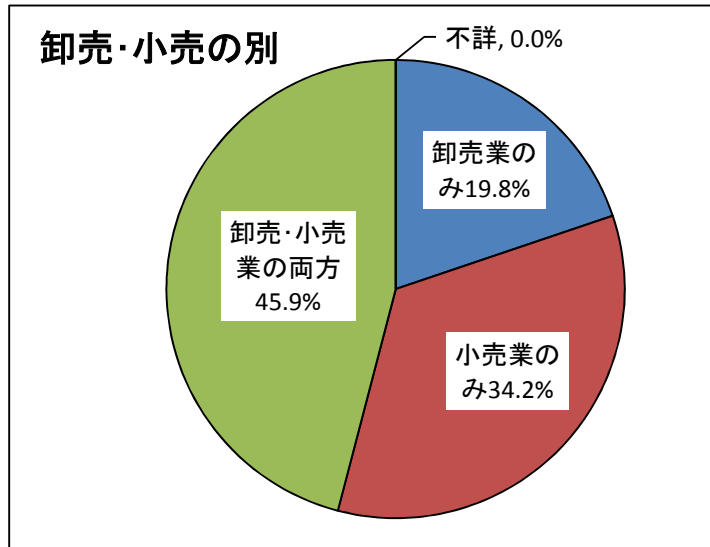


後継者の有無



(出典)厚生労働省「平成26年度生活衛生関係営業経営実態調査(食鳥肉販売業)」
(平成26年10月1日現在)

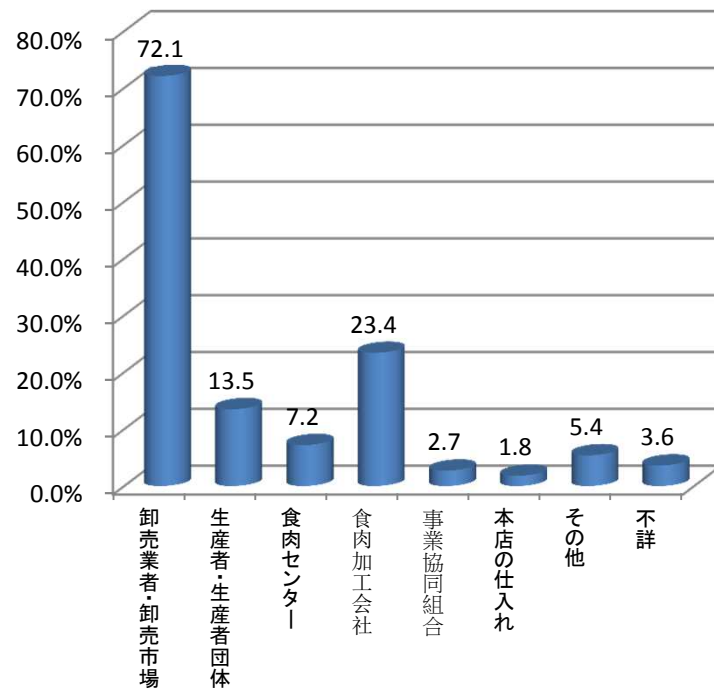
食鳥肉販売業経営実態調査②



(出典)厚生労働省「平成26年度生活衛生関係営業経営実態調査(食鳥肉販売業)」
(平成26年10月1日現在)

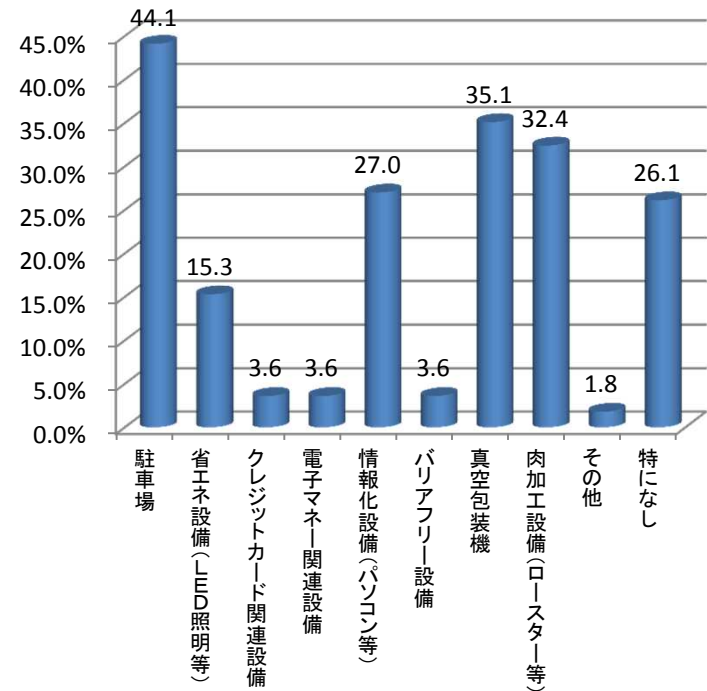
食鳥肉販売業経営実態調査③

生鮮肉の仕入れ先(複数回答)



- 生鮮肉の仕入れ先の割合を観ると、「卸売業者・卸売市場」が72.1%と最も多く、次いで「食肉加工会社」が23.4%、「生産者・生産者団体」が13.5%となっている

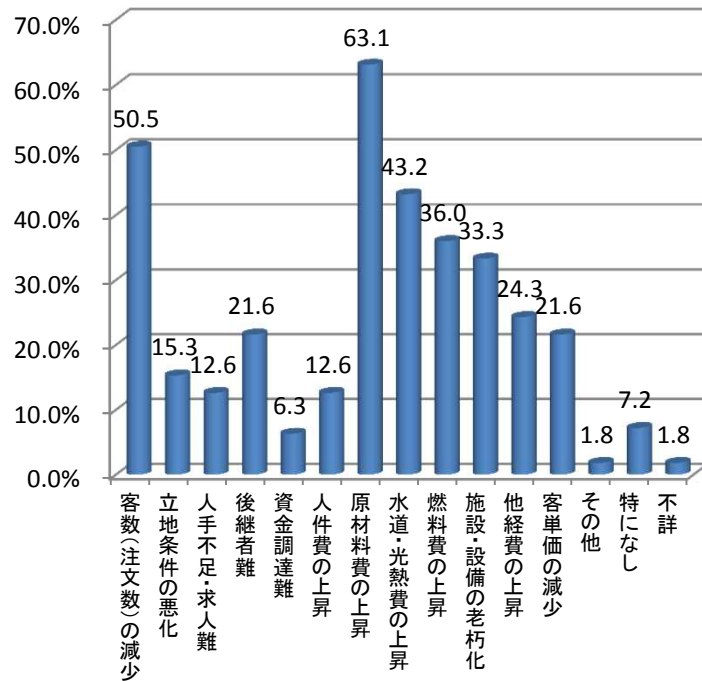
設備等の状況(複数回答)



- 設備等の状況の割合を観ると、「駐車場」が44.1%と最も多く、次いで「真空包装機」が35.1%、「肉加工設備(ロースター等)」が32.4%となっている

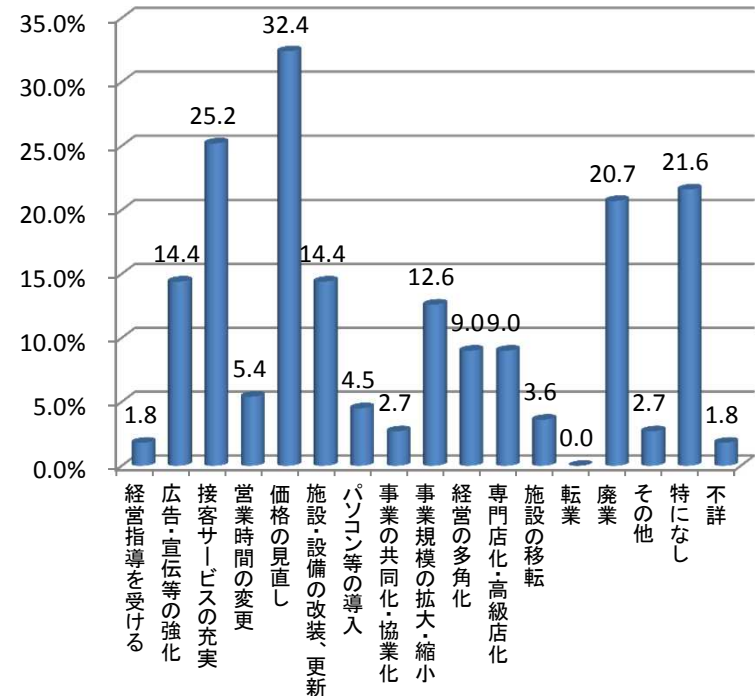
食鳥肉販売業経営実態調査④

経営上の問題点(複数回答)



- 経営上の問題点の割合をみると、「原材料費の上昇」が63.1%と最も多く、次いで「客数(注文数)の減少」が50.5%、「水道・光熱費の上昇」が43.2%となっている

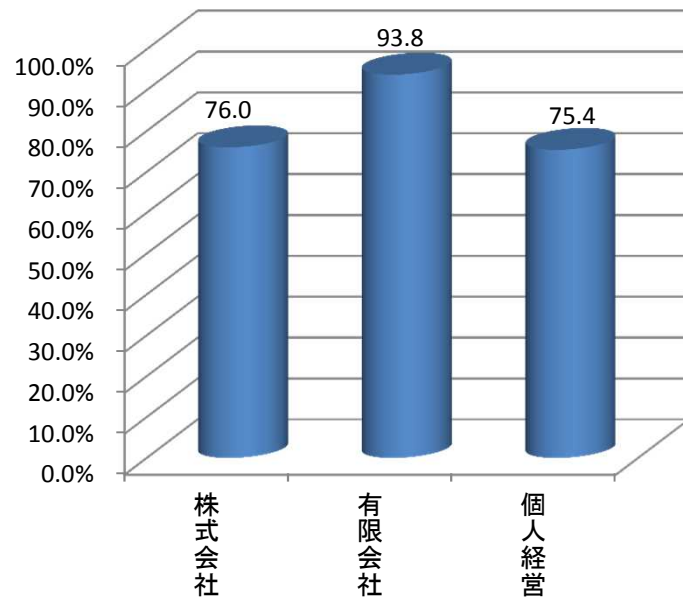
今後の経営方針(複数回答)



- 今後の経営方針の割合をみると、「価格の見直し」が32.4%と最も多く、次いで「接客サービスの充実」が25.2%、「特になし」が21.5%となっている

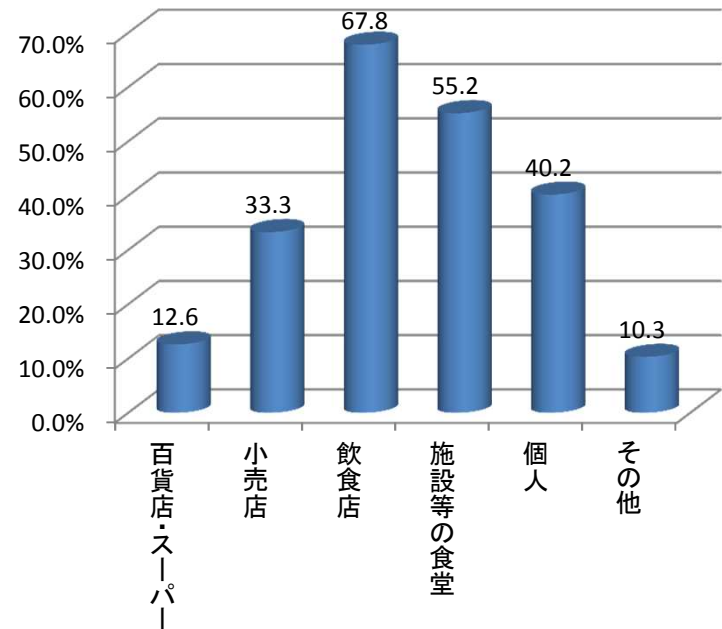
食鳥肉販売業経営実態調査⑤

配達サービスを実施している食鳥肉販売店
(経営主体別)



- 配達サービスを実施している食鳥肉販売店の割合を経営主体別で見ると、「有限会社」が93.8%と最も多く、次いで「株式会社」が76.0%、「個人経営」が75.4%となっている

配達サービスを実施している食鳥肉販売店の
配達先の構成割合(複数回答)



- 配達サービスを実施している食鳥肉販売店の配達先の割合を見ると、「飲食店」が67.8%と最も多く、次いで「施設等の食堂」が55.2%、「個人」が40.2%となっている

食鳥肉販売業経営実態調査⑥

平均数値

1施設あたり平均従業者数(男)	3.9人
1施設あたり平均従業者数(女)	3.4人
経営資本対営業利益率	19.5%
経営資本回転率	1.9回
売上高対営業利益率	10.0%
総資本對自己資本比率	46.1%
売上高対総利益率	25.0%
売上高対経常利益率	10.5%
営業費比率	14.9%
売上高対広告費比率	0.1%

(出典)厚生労働省「平成26年度生活衛生関係営業経営実態調査(食鳥肉販売業)」
(平成26年10月1日現在)